

やすらぎ

埼玉県精神保健福祉協会ニュース

<第56号>

平成26年7月

公益社団法人 埼玉県精神保健福祉協会
会長 山内 俊雄

<事務局>

埼玉県立精神保健福祉センター内

TEL/FAX 048-723-5331

<http://homepage3.nifty.com/kokoro-saitama/>

農業特集第一弾

埼玉県上尾市にある、社会福祉法人あげお福祉会就労継続支援B型事業所「グリーンドア」では、平成25年4月から既存の業務に加えアグリ課を創設し「しいたけ・きくらげ栽培」を開始。福祉の立場で農業に取り組むことになった経緯や今の現状を、職員のお二人（施設長の竹村絵里さん、アグリ課担当の大須賀良子さん）にお聞きしました。

質問者：農業を始めたきっかけは何ですか。

竹村さん：お陰さまで、利用を希望される方がたくさん待って下さっているので、作業種を増やしたいという思いがありました。ただ、会社の下請け作業では景気の影響で作業量が増減するため、自分達の都合で作業量を確保したくて。食べ物は今まで扱ったことがなかったのですが、販売会で売れているのを見て是非やろうと思いました。周りの事業所がすでに行っている物ではなく、味の好みも少ない素材自体に着目しました。農業のようなハードな作業は体力的に利用者（以下メンバー）には無理ではないかとも思いましたが、菌床屋のダイレクトメールを見て、何かひらめきみたいなものもあり、農業関係を創造しました。

質問者：始めるにあたって、まず具体的に着手したことは何ですか。

竹村さん：土地探しと助成金探しから始めました。市内の農業関係者に話をしたり伊奈町にも行って見たのですが、実は、農業者以外の方が農地を借りることは容易なことではなかったのです。地主さんと私達の関係だけでは進めることが難しいことも分かってきたので、思い切ったつての無い農協さんにご協力をお願いしに行きました。準備を始めた3年前は、丁度国レベルで「農福連携」が言われ始めた頃でしたし、農家の方の高齢化や耕作放棄地問題も聞いていたので、きっと無料でどうぞという方が現われるのではと思っていました（笑）。地域のためにもなると思ったのですが、残念ながらそのような出会いはなく、結果的にはお借りすることになりました。

助成金は、埼玉県から300万円ほどいただきました。今となっては、もっと高額な助成金が



それこそ農林水産省から出ているのですが、タイミング的に合いませんでした。もし、これから始めようという事業所があれば、ぜひ活用したら良いかと思います。

質問者：もしよろしければ、どの位初期費用がかかったのか教えていただけますか。

竹村さん：約1千万円はかかりました。元々の農地を平にするための整地代や、パイプハウス（ビニールハウスより頑丈なもの）を建てたり電気を通したり。水を確保するために井戸も掘りました。700万円位は借金をせずに自己資金で賄いました。

質問者：しいたけときくらげ栽培に決めた理由は何ですか。

竹村さん：メンバーにも希望を聞きながら菌床屋さんと相談をし、最初は通年のしいたけ栽培を考えていました。1年中温度管理をするハウスの中で作業ができ、出荷も通年できるため、変化が苦手なメンバーに合っているのではないかと思ったからです。しかし、いざ菌床を購入する段になって、別の熱心な菌床屋さんから、通年タイプの菌床は実は初心者には難しいと言われたんです。結局、冬はしいたけで夏はきくらげが良いと勧められ説得されました。県内の事業所できくらげ栽培は他に聞かないので、結果としてはやって良かったと思います。

質問者：大須賀さんは、これまで農業経験がないと思うのですが、何から取り組んだのですか。

大須賀さん：菌床屋さんの研究所で、菌床を作るところから育てるところまでの研修を3日間行いました。その後も分からないことがあると、毎日のように電話をして解決してきた感じです。私やメンバーにとっては全てが初めての事だったので、お互い手探りの状態から始めようと呼びかけたところ、最初はメンバーが1人しか集まりませんでした。今では所属が7人になりましたけれど、受け入れは、基本的な条件に基づきながら見学や体験から進めています。

質問者：土日や長期休暇中の菌床管理はどうしているのですか。

大須賀さん：去年は、土日も職員が収穫をしていましたが、今年は去年のデータやノウハウを基に、放置しても大丈夫なようにエアコンをかけたり自動的に散水をするように設定し、気温や湿度管理を行っています。

質問者：メンバーとの作業遂行や業務管理などで、大変なことや課題は何ですか。

大須賀さん：やはり、通年同じ種類の栽培をしないので、メンバーが作業を覚えるのが大変だと思います。判断を求められたり、感覚や経験がものを言う作業種であるため全てをマニュアル化できず、教え方が難しい。また、種類の切り替え時期には一時的な閑散期となるため、やむを得ず半日作業にする事もあります。所属メンバーを増やしたいとは思いますが、今の規模ではある程度制限をする必要があります。他にも、安定した生産量確保やそれに伴う販路確保がないと、規模を大きくしようにも商品不足や廃棄量が増える事態が起こります。今後は、他の職員にもノウハウを一緒に学んでもらうことが必要だと思います。

質問者：販路ということでは、これまでどのように販売先を開拓してきたのですか。

竹村さん：きくらげは、去年は全て手売り販売しました。今年もお陰さまで、廃棄を出さないどころか乾燥が作れない程売れています。しいたけは、農協さんや地域の農業者さんに教えていただき、市場にも出荷をしています。自分達で商品を持ち込んで交渉し、ベルクさんの2店舗や農協さんの直売所、個人経営の八百屋さんにも継続的に置いて頂いたり、県立精神医療センターさんには知人を介して営業し、病院食として定期的に使って頂いています。

質問者：新たな作業の作り出しという意味では、やってみてどうでしたか。

竹村さん：やはり、今までにない作業種という面が大きいです。地産地消の作業支援ができているという自負もあります。自分達が作った物をハウスに直接買いに来て下さるお客様がいて、美味しいと言ってくくださるのを間の当たりにできることは、下請け作業では味わえないこ

とだと思えます。地域のイベントにも積極的に参加するようになりましたし、売上も増えました。今までお付き合いがなかった層との繋がりが出来たように感じます。

大須賀さん：導入して良かったと思えます。食べ物を通してグリーンドアの名前を知ってもらえることが一番強いなと感じます。地域の方が普通に来てくれて、メンバーが会話し接客をする。本当に良い場所を作ったなと思えます。商品は口コミでも広がっていて、ハウス前ですいたけの詰め放題をやった時には、1日に約1万円の売り上げがあったこともありました。お客様の声を直接聞けるので、やはり、それが一番のやりがいになっているとメンバーも話しています。

質問者：工賃アップにも繋がっているようですね。

大須賀さん：収益は確実に上がっています。毎月作業経費と工賃で24万円を見込んでいますが、30万円の売り上げになっています。昨年度は年間で106万円ほどの収益でした。

質問者：改めて、福祉事業所で農業を行うことについてどのように思っていますか。

竹村さん：障害のある方が、地域の中で力を発揮できるということが大事だと思います。出来ることをやるというよりは、地域に求められていることをメンバーと一緒にやるという視点で、農業でもそれ以外の仕事でもやれると需要にも繋がるかと。工賃が上がるということだけではなく、障害のある方の存在価値が評価されるという、一つの活動として広がればいいなと思います。

質問者：最後に今後の展望を教えてください。

竹村さん：今借りている土地は、もう一棟ハウスが立つ位広いので、できればその規模でやっていけると良いなと思います。

大須賀さん：さらに販路開拓を進め、できれば独自産業に繋がりたいと思います。加工等ができる事業者を探してそこに卸しつつ、同時に販売も出来るようにして生産量を上げたいと思います。

質問者：本日はありがとうございました。

アグリ課訪問

平成26年6月25日に上尾市平塚にあるアグリ課を訪問。当日は薄曇りのお天気で、パイプハウス内の気温は28℃・湿度は62%の中、5名のメンバーと2名の職員、1名の実習生が作業を行っていました。



当日の作業内容は、きくらげの収穫・検品・計量・袋詰め、しいたけ菌床の除袋作業やきくらげ菌床リセット作業とさまざま。それぞれの持ち場で、汗を流しながら働いていました。



<メンバーの声>

- ・Tさん：大変なこともあるけれど、仕事が多くあった方が働き甲斐が持てる。わざわざお客様が買いに来てくれるのも嬉しい。良い商品を作っている楽しみと自信がある。
- ・Wさん：この間の6月に菌床を入れ替え、7月中にしいたけの菌床袋を一つひとつ開ける作業や散水が大変。生えてくるかどうかの不安もある。しいたけ詰め放題など、工夫するとたくさん売れることが嬉しい。
- ・Mさん：昨年の10月からアグリ課に携わっているため、夏場をハウス内で迎えたことがないのでこれからの時期が少し不安。農業自体の経験がないので始めは不安だったが、職員に教わりながらなんとかやっている。体力も徐々についてきたと思う。収穫するのは楽しく、お客さまが来て「おいしかった」と言ってくれる反響が嬉しい。
- ・Sさん：収穫が楽しい。お客さまが買って喜んでくださることが嬉しい。正直、こんなに手間がかかる大変なことだとは思わなかった。やってみてよく分かった。
- ・Yさん（非常勤）：関わる曜日は限られているが、楽しみながらやっている。生き物を相手にしていることや協働しないとできない仕事のため、メンバーがモチベーションを持つことにも繋がっているのではないかな。安心して作業ができる環境なのも良い。新鮮なものを良い状態で提供できるよう努めているが、今後はさらに販売先を拡大することが課題だと思う。

報告 1

～平成 26 年度定時総会報告～

平成26年6月8日(日)、埼玉教育会館201会議室において平成26年度定時総会を開催いたしました。議事である平成25年度事業報告、決算報告、平成26年度事業計画及び予算、役員就任については、全て原案のとおり可決されました。

総会終了後、平成26年度公益社団法人埼玉県精神保健福祉協会会長表彰式を行いました。協会長表彰は、精神保健福祉の向上に献身的な努力をなされ、また個人については県内で20年以上、団体については10年以上の活動年数がある方が対象です。関係機関や団体からの推薦により、理事会の審議を経て決定されました。表彰者は下記のとおりです。

【個人】 15名

氏名	所属	氏名	所属
松本 由美子	医療法人くすのき会 南飯能病院	久保木 順子	公益社団法人日本てんかん協会 埼玉県支部
福山 律子	医療法人白翔会 浦和神経サナトリウム	関根 ふみ子	公益社団法人埼玉県断酒新生会 いずみ会
吉野 聡	一般社団法人日本精神科看護協会 埼玉県支部	山田 野婦子	公益社団法人埼玉県断酒新生会 いずみ会
岡崎 洋子	医療法人社団松風会 松風荘病院	中村 美智子	医療法人秀峰会 北辰病院
神杉 学	医療法人社団松風会 松風荘病院	新津 徹宣	順天堂大学医学部附属 順天堂越谷病院
清野 博	医療法人社団松風会 松風荘病院	長谷川 智子	順天堂大学医学部附属 順天堂越谷病院
田代 健太郎	秩父 心和会	岩井 美奈	順天堂大学医学部附属 順天堂越谷病院
松本 栄子	蓮田かもめ会		

【団体】 4団体

団体名	代表者	所在地
入間ゆずり葉の会	高橋 百合子	入間市
わたりがに	吉田 勝江	秩父市
就労継続支援B型事業所 作業所ケルン	根岸 弘子	秩父市
小鹿野町地域活動支援センター おがのふれあい作業所	小菅 廣義	小鹿野町

当日は協会長表彰と共に、埼玉県精神保健福祉事業功労者表彰式も行われました。受賞されたNPO法人耀の会 関 正視氏に「チャレンジドの自立支援」をテーマに記念講演をしていただきました。耀の会は、和光市内に活動の拠点を置き、「地域活動支援センターワンステップ」を運営されています。「チャレンジド」とは、当事者のことで、「挑戦するという使命や課題・チャンスを与えられた人」という意味が込められています。

報告2

～平成25年度新メンタルヘルスプロジェクト事業報告～

新メンタルヘルスプロジェクト事業は、埼玉県内において行われる精神保健福祉分野に関する普及啓発及び社会貢献活動の促進を目的とし、諸団体が行う活動に係る経費の一部又は全部を当協会が共催費負担金として負担するものです。平成25年度は下記の4団体に助成を行いました。

総会終了後、助成団体を代表し「社会福祉法人所沢しいのき会」が事業の実施報告発表を行いました。

《平成25年度新メンタルヘルスプロジェクト事業助成団体》

団体名	事業名	助成金額(円)
福祉教育について考える会～こころの輪～	精神障害者当事者活動に関すること	80,000
社会福祉法人所沢しいのき会	市民向け講演会	50,000
埼玉県障害者バレーボール協会精神障害部門	精神障害者バレーボール普及事業	70,000
フットサル大会 IN 埼玉実行委員会	埼玉県内における精神障害者フットサル大会の開催	150,000

なお、平成26年度から「こころの健康プロジェクト」に名称変更し、新たに助成条件に「精神障害者に関するスポーツおよび芸術の振興」が加わりました。今年度の助成団体決定については8ページをご覧ください。

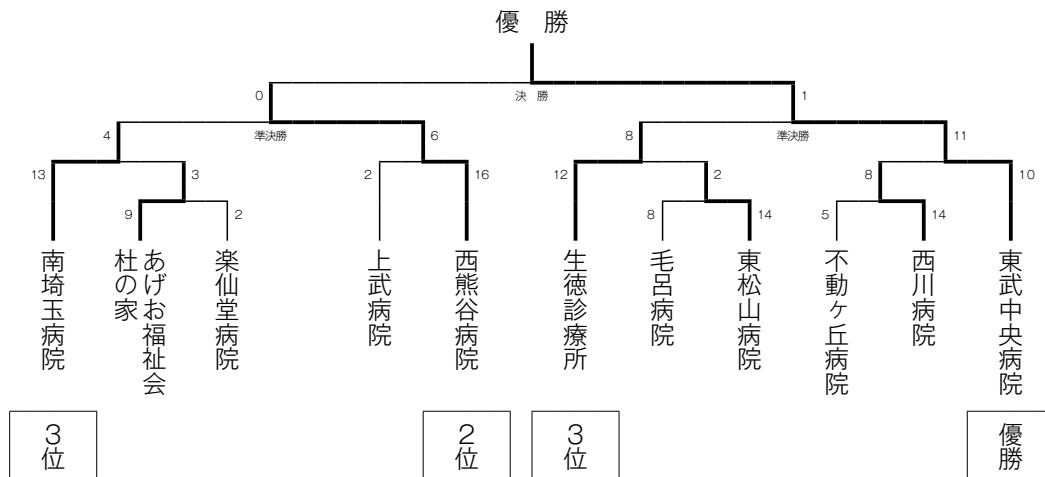
報告3

第42回埼玉県精神保健福祉ソフトボール大会

5月30日(金)、荒川総合運動公園(さいたま市)にて「第42回埼玉県精神保健福祉ソフトボール大会」を開催いたしました。今大会は11チームが参加しました。

決勝は西熊谷病院と東武中央病院が戦い、最終回まで0対0の接戦でしたが、最後に東武中央病院が1点を入れ、優勝しました。

また、親善試合リーグでは不動ヶ丘病院が、昨年度親善試合リーグ優勝者である上武病院を下し、優勝しました。



優勝チーム：東武中央病院へのインタビュー

暑さが厳しい中での大会でした。決勝戦まで3試合戦ったが、正直とても疲れました。まず優勝できたことが、とにかく嬉しいです。今回の結果はチームのみんなが日頃の練習を頑張ったせいかとともに、携わってくれたスタッフや応援の方々、控えの選手達みなさんの協力のおかげだと思います。

再び病院へカップを持って来られたことも、嬉しく思います。(キャプテン H.I)



「親善試合トーナメント」優勝チーム不動ヶ丘病院へのインタビュー

本戦では、1回戦で敗れましたが、そのきっかけでみんなの心が1つになり、チーム一丸となって親善試合に向けて絶対に勝ちに行く強い心構えで挑みました。一人一人の心に火がつき、チームワークがより良い形になり親善試合優勝となりました。

来年は、より一層技術向上、チームワーク一丸となって本戦でいい結果を残したいと思います。(不動ヶ丘オールスターズ)



報告4

平成26年度 第1回こころの健康講座

平成26年6月21日(土)大宮ソニックシティ 大ホールにて聖学院大学学長、東京大学名誉教授 姜 尚中氏を講師に招き「心の力～何が生きる力になるのか～」をテーマに第1回こころの健康講座を開催いたしました。

今回の講演内容は平成27年度発行の「こころの衛生」に掲載いたしますのでご覧ください。



姜 尚中先生と、当協会 高畑隆理事

報告5

一般寄付金の受領について

平成26年3月19日埼玉県精神科病院協会から5万円、5月26日当協会前事務局長 菊池礼子様から3万円の一般寄付金をいただきましたので、ご報告いたします。皆様からの温かいご支援とご協力に厚く御礼申し上げます。

お知らせ

<平成26年度こころの健康プロジェクトの助成団体決定について>

こころの健康プロジェクトは、埼玉県内において行われる精神保健福祉分野に関する普及啓発及び社会貢献活動の促進を目的とする、先進的精神保健福祉事業立ち上げ支援制度です。

事業財務委員会及び臨時理事会において、厳正なる審査を行った結果、以下の団体に助成することが決定いたしました。

《平成26年度こころの健康プロジェクト助成団体》

団体名	事業名
フットサル IN 埼玉実行委員会	埼玉県内における精神障害者フットサル大会の開催
社会福祉法人 所沢しいのき会	市民向けの講演会
埼玉県障害者バレーボール協会 精神障害部門	精神障害者バレーボール普及事業
福祉教育について考える会～こころの輪～	精神保健福祉教育による精神保健、精神障害者の普及・啓発活動
埼玉県北部地域スポーツ交流活動の会	埼玉県内北部地域精神障がい者フットサル交流会

<彩の国ふれあいピック秋季大会>

日時：平成26年9月28日（日） 午前9時30分～午後3時

会場：熊谷スポーツ文化公園（熊谷市上川上300）

内容：様々な種目で障害者スポーツ競技を行います。当協会は、グラウンド・ゴルフの運営を行います。グラウンド・ゴルフは自由参加種目です。事前申込み不要ですので会場（補助競技場）までお越し下さい。

<第42回埼玉県精神保健福祉卓球大会>

日時：平成26年10月3日（金） 午前9時～午後4時

会場：行田グリーンアリーナ（行田市大字和田1242）

内容：卓球大会（団体申込）※申込締切りは8月15日です。

<SAITAMA 心の健康フェスティバル IN 秩父>

日時：平成26年10月2日（木） 午後1時30分～午後3時（開場午後1時）

会場：秩父市歴史文化伝承館 大ホール（秩父市熊木町8-15）

内容：講演「松本ハウストークショー」

講師 松本ハウス

定員：314人（申込み先着順） 参加費：無料

申込先：秩父保健所保健予防推進担当

申込方法：電話 0494-22-3824 FAX 0494-22-2798

FAXの場合は「松本ハウス希望」と明記の上、氏名、住所、電話番号をご記入ください。

<第8回こころの青空グラウンド・ゴルフ大会>

日時：平成26年10月24日（金） 午後1時30分～午後4時

会場：埼玉県障害者交流センター（さいたま市浦和区大原3-10-1）

内容：グラウンド・ゴルフ大会（個人申込）※詳細につきましては別途ご案内します。

△△ 編集後記 △△

先日開催した、第1回こころの健康講座には2,204名もの方にご来場いただきました。これを機に、より多くの方がこころの健康について興味を持っていただけると嬉しいです。（平賀）